

国家試験不合格は、 教育指導者の結果責任

外国人看護・介護士国家試験が間近に迫り、今までの受験対策の成果が問われようとしています。しかし、この場に及んではどのような対策を講じても「時はすでに遅し」と言わざるを得ません。だからといって、今後も継続的に行われる国の外国人受け入れ事業が続く限り、看護・介護分野における日本語教育を中止するわけにもいきません。このことを熟慮して、今回【教育結果に対する責任意識】を喚起するために【教育結果は、教育指導者に責任あり】ということを明確にする必要があります。その視点としては、次の通りです。

- ★ 第一に、「結果を挙げられない教育は効果なし」とみなし、その責任は指導者にあるとみなすことです。
- ★ 第二に、第三者が見て、教育計画が抽象的なものは「机上の空論」であり、指導者の資質の無いことを表しているものです。
- ★ 第三に、受験生の言語能力を数値化できない指導者は、「主観的な教育を行う自画自賛型」の指導者であり、受験生に責任転換をする指導者とみなすべきです。

以下にその理由を挙げます。

理由その1、「教育は科学なり」の教育に対する一貫した考え方をもって、人間の脳に対する外国語（日本語）教育を行えば、どのようなレベルの脳を持った受験生であっても、一定の言語能力のレベルに到達できることは、世界の外国語教育で証明されています。

「教育は科学なり」の考えを実践するにあたっては、受験生の言語能力の育て方を【総合的に考えて、教育方法を体系的に作り、その学習を継続的に行わせる】ことが最も重要な要素です。

理由その2、現状の看護・介護分野で行われている日本語教育の大半が、ただ単に「覚えさせる・答えを選ばせる」を重要視した教育方法で、「考えさせる・理解させる」教育方法とは全く正反対の方法が蔓延しています。その結果、受験生は偏った日本語技能を養うだけで、国家試験受験能力すら得られません。

理由その3、前回の外国人介護福祉士国家試験受験者数と合格者数を冷静に見れば、教育結果は約3割強でしかないことは、いかに「非科学的で一方的な方法による覚えさせる教育であったこと」かが証明されています。

さらに、前回合格者の5割以上が弊社の【国家試験受験能力到達度試験経験者】であったことを考えると、受験生の中でわずか15%が暗記法による教育を受けた合格者だということが判明しています（右表参照）。教育方法によって、いかに合格率が左右するかが、お分かりになるかと思います。

受験者数	95名	
合格者数	36名	37.9%
内弊社試験受験者数	19名	52.7%

心あたりありませんか？

【自称日本語教師の教育に対する特徴】

- 1 日本語教師の多くは、「受験生が勉強しない」とか、「覚える気がない」、「集中力がない」などなど、教育効果に対して責任逃れをします。
- 2 合格を目指した具体的な学習計画を立てられずに、自分の経験の範囲だけで、強引に暗記することだけを要求したり、一方的な言葉の説明をするだけに終止します。
- 3 教師の「教育者としての資質と指導力の無さ」を棚に上げて、教育効果が上がらないことの原因として、「受験生のレベルの低さや、日本語の教え方の難しさのせい」にします。さらには、何事につけても、受験生に責任転換する傾向が顕著に見られます。
- 4 自称日本語教師たちは、不合格に対する責任は一切とらず、多大な教育費を取り、平然として自己流の教育方法がまさに正しいかのように強弁します。

★ ★上記4点に一つでもあてはまる状況があれば、教育者としての資質と資格が疑われても仕方の無いことです。これらの傾向は、外国語教育を行う世界の教師水準から見ると、あまりにも醜い姿であると言えます。

こうした自称日本語教師とは一刻も早く手を切り、受験生の人権を守ることこそが、EPA国際協定の精神を守り、「受け入れ機関の労働力強化につながる最も近道」な方法です。

注目！

【教育依頼者の権限を活すことで、教師の資質を見極めることができる】

- 自称日本語教師は立場をわきまえずに、教育面については全て自分の権限の範囲だと錯覚して、依頼者の意見を拒否したり無視したりします。

プロの日本語教師は、教育依頼者のニーズを汲み取り、要望に従って、教育目的を実現することを最大の使命として教育を行います。

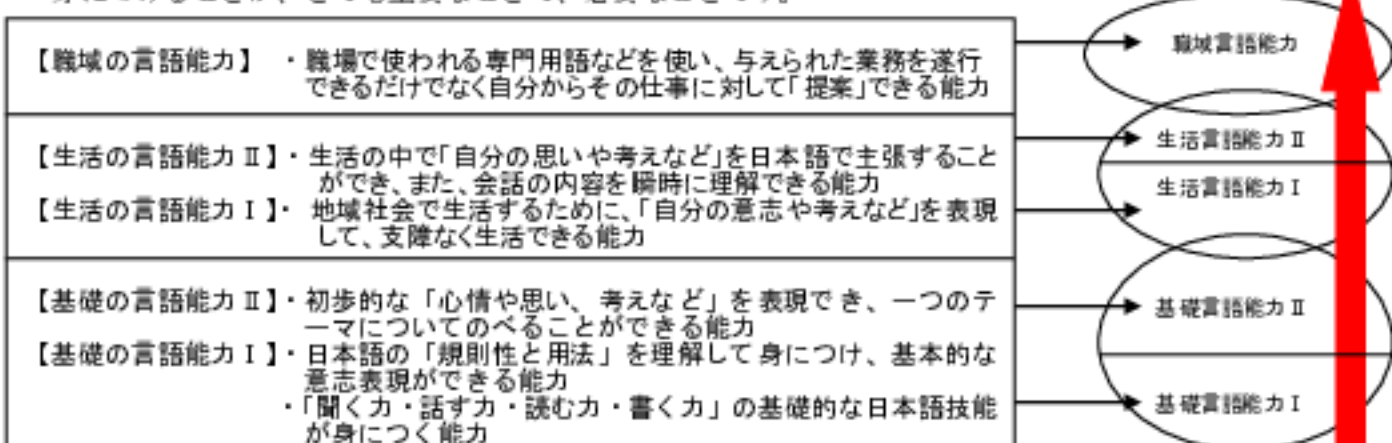
- 残念ながら、依頼者が一度教育を教師に依頼すると、依頼者が「全て相談や判断を請う姿勢」になっている実態があります。あくまでも、教育は依頼者の目的を実現するために行うものですから、日本語教師が勝手気ままに行うこと自体が異常だと言えます。

- さらに、依頼者は日本語教師に対して、定期的な学習進度の到達度を具体的な数値で報告することを求めなければ、彼らの独善的な教育を止める術がなくなってしまいます。

この点は、国際的な外国語教育の領域では、「常識論」として通用するものですから、是非、読者の皆様も強く依頼者の権利として実行することを、お勧めします。

【科学的で計画的な日本語教育を行うための考え方】

- 下図のように、「言語能力」を養うためには、学習階段を一段一段登るように、受験生の「言語能力」に合わせて、段階的に教育することが最も効率的で、確実な教育方法です。受験生であっても、日本人の幼児が言葉を習得する過程と、同じ道をたどります。
- 「覚える・記憶する」日本語学習ではなく、「使える日本語」を身につける教育方法が大切です。基礎となる言語能力を固めて、瞬時に反応できる能力を養い、そして、自学できると同時に、「使える日本語力」を身につけることが、とても重要なことで、必要なことです。



施設の驚きの声

日本語教師の効果が無いので、次の受け入れは最初から職員が指導！！

職員が受験対策をしています。昨日言ったことを翌日には忘れていたり、問題をしっかりと理解して答えてはいないことが分かりました。入職してから3年間、日本語教師に指導を任せきりにしていたので、教育効果の無さと、日本語能力の無さにも気づかなかったことを後悔しています。

その結果、受験者の学習意欲も上がらず、現在では帰国願望が強くなってしまいました。このことを反省し、次の受け入れは教育効果のない教師を辞めさせて、職員が直接、日々の学習を見ることに方針を切り替えるため、御社の試験制度にも参加して、能力をチェックしていけたらと思います。

(愛媛県・W施設)

一人でも多くの受験者の「合格」を願って！！ 「結果が全て。そのためには、教育効果の高い方法を」

現状の国家試験対策方法を「これでよし！」とせず、もう一度、施設内での指導方法や「教育効果」が上がる方法を見直してみてもいいですか？ 何事も「受験生の能力を客観視する」ことが大切です。

10分間テストを受けたことのない受験者は、「国家試験受験能力到達度試験」の受験をお勧め致します。

日本語教師に「10分間テスト」を反対された・・・！！

再来年、受験を控えている候補者がいるので、無料のテストを実施させて、来年度の指導に役立てるために、今の能力の到達度を見ておくことは重要だと、施設内では考えていて参加をさせていただこうと思っていました。しかし、日本語の先生にも相談し、実施を促してみたところ、「時間がない。事業団のテストを受けているので必要なし。」という答えが返ってきて結局、反対されました。なぜ、教師は反対するのでしょうか。分かりません。たった10分間なんですけどね。(千葉県・K施設)

日本語教師の「教育効果」は正直、低かった・・・！！

4名候補者がいて、能力差が大きく、できる人とできない人を分けて対応していたので、苦勞しました。

日本語教師に依頼をしていましたが正直、その効果は低かったです。今後の受け入れは、職員の数も限られているので、1月の試験の結果で考えます。

しかし、試験結果は全て日本語教師の能力を表しますので、心配です。

(東京都・T施設)

月報14号を読んで、「日本語教師の質」について同感！！

いつも、情報をありがとうございます。14号を読ませていただきました。日本語学校や教師の質については、県の集まりで多くの施設職員から「効果がない・伸びない」という声を聞きます。多額の教育費を払っているのに効果が無いことは全く無駄と感じています。どこの施設も同じような悩みを抱えているようで、試験問題の「読解」ができなくて苦勞しているようです。

職場では、決まった日本語の繰り返しだけなので上達できません。受験者は、「日本語の規則性」等が分からなくてもすんでしまいます。その点から14号を読んで、国家試験問題には「しっかりとした言語能力がないと対応できない」ということがよく理解できました。

(神奈川県・K施設)

会話だけで判断してはダメなことが分かった！！

受入れている候補者は、インドネシア人ですが英語が話せるため、日本語の先生には精神面でサポートはしてもらえました。しかし、教育効果については、ダメでした。職員も受験者がどこまで理解しているのか、会話だけでは判断できずよく分かりませんでしたので、今後は、御社の試験制度を検討して、残り1年間学習することも今考えています。

(岐阜県・A施設)

注目！！ 2014年、15年度「国家試験受験者」対象 <10分間テスト(無料)> 実施中

◎ 受験者の「受験能力」はどの程度あるのか？ ◎ 日頃の指導がどれだけ身についているのか？

疑問をもったことはありませんか。確実に「合格」を目指すのなら、受験者の「会話力」だけで判断せずに、読解力を養って下さい。そのためには、プロの診断を受けることが最も大切なことです。

★★ 「8つの言語技能」に分けて細かく分析し、考察を返却後、「教育相談」も実施しています。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年 3 月に発表された外国人介護福祉士国家試験合格者発表で明確に立証されました。 その内容では、受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名（52.7%）が、この受験能力到達度試験を受けた受験者でした。

※ 本試験は、国家試験に対する受験テクニックや言葉の暗記を重視したものではなく、あくまでも専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	合格 ↑ 職業言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

【国家試験受験能力到達度試験】ご参加のおすすめ

【国家試験受験能力到達度試験】は、外国人国家試験受験者を対象とした【言語能力】を段階的に判定できる試験です。第一段階では＜基礎言語能力＞を観る初回レベル～Dレベルまでで、第二段階では＜国家試験受験能力＞を観るEレベルとFレベルです。そして、第三段階では＜国家試験合格能力＞を観る国試1レベル～3レベルの三部構成で実施しています。

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値（月報15号P4参照）を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】チェックと【教材】申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>

施設名：

ご担当者名：

所在地：〒

電話：

FAX：

メールアドレス：

<受験人数> 名

<受験者の国籍> インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）

※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。

<単発受験>

初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @15,000円 × 名 合計金額 円

<継続受験>

初回から全10回（教材費込み） 140,030円 × 名 合計金額 円

（再試験が発生した場合は、別途料金）

★ 教材のおすすめ（詳細は月報15号P6参照）下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ）冊 ひらがなかーど（ ）冊 漢字の一と1（ ）冊

100万人の日本語No.2（ ）冊 ひらがなの一と（ ）冊 漢字ノート2（ ）冊

100万人の日本語No.3（ ）冊 カタカナノート（ ）冊

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田3-2-13 石田ビル303

電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba__ken@yahoo.co.jp

《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】 ③ 漢字も頻推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

□
日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性と用法」が学べ、自在に会話力がつくような内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
※漢字の学習者が漢字習得をする上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発音方法が学べます。
身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べる教材です。



【ひらがなカード】

□
表にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭など場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な語彙を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。
さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を意志表現でできる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文章に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。
※漢字の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。
このノートは、説明文と会話文が繰り返し使われて作られています。
場面を紹介する文は、外支語の理解と、その習得練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の実用力を養えるようになっています。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,200字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥ 1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥ 2,550
	「ひらがなのーと」	¥ 1,800
	「漢字のーと 1」	¥ 1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥ 2,550
	「カタカナノート」	¥ 1,360
	「漢字のーと 2」	¥ 1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥ 3,000
※ 送料は別途		

